

八〇 實り（大橋正堯氏）半切横繪

發色はよいが、前の樹の枝は態とらしく、中景の山は青が勝過てゐるやうである、そして田の色と調和しない、何となく雅味の乏しい繪である（霞）

觀察が粗く、何處となく調和がわるく、氏にしては失敗の作であらう、田の現はし方も、中景の山も、其寫し方に熟さぬ點が見える、繪全體から見ると、短時間に急いで仕上げたといふ趣があつて、研究の不充分を諸處に示してゐる（鷗）

果物の美

林檎の色は黄緑、淡黄、紅、淡江、にして、この美は近く見るにあり其他桃、梅、梨、杏、李、皆美、これ等は木に着いてゐるものよりは、各種を集めて籠に入れたもの、又は配置したもの、方が畫として面白い、殊に畫として妙味あるは果物店、果物市場等である、これ等を寫生するには、果物の形及其色の配合を調べて光線を作り、描く上に於ては少しも人意を加えぬ様にする。果物は四季を通じてあるものだから、其期のものを選ぶがよい、果實は初學の者の研究には、花と同じくモデルの好材料である（丸山晚霞氏、女性と趣味）

ピーター、デ、ウイント [三]

青 人

ピーターの父ヘンレー、デ、ウイントが此の結婚は一七七三年に父よりの故障にて思止まることゝはなんぬ。其後に結婚しけるは米國富豪の従妹なりき。ヘンレーは妻あるを秘して親元に言遣らざりしかども、終に知る處となりて、其結婚を拒まれ、其上に勘當の身とはなりぬ。かく扶持放れとなりけると、既に二子ありしが、サウスウエールスにてカーディフの隣にて開業しぬ。されどこゝにも住み易からず、一七八一年にスタッフォード、シャイアのストーンにて獨立に開業したりける。こゝは遂には中位の成功なりき。ストーンにては十子を得て、ピーターは其第四子にて、地上に來れるは實に一七八四年二月二十一日なりき。

家族の口碑によれば、ピーターは幼時より小兒らしき處絶てなく、常に惡戯を好み、喜んで障の棒を削り、これを鳴らすことを好みしとぞ。豎子獨り森あるは原野に入りて、樹木の發達を熟視し、或は鳥獸の習癖を研究しつゝありき。それより學校にあるときは、自身の慰の爲めに畫を描くのみならず、朋輩に寫生の方法を教へつゝありしとぞ。氏は幼時より、美術家たるの性行を持して、曾て此の初一念を破らざりき。氏は和蘭と蘇格土蘭人種の血を混えたる人なれば、頗る友誼的の愛らしき處はなかりしも、剛頑にして忍耐力に富める執拗なる性質を有しぬ。